

物部川濁水対策検討会（報告）

令和3年12月1日
高知県

物部川の濁水問題に関する現状と課題

- 物部川の上流域では、平成5年の山火事や生態系変化による鹿の食害増加により、山林の荒廃が進行し、特に平成16年、17年の台風被害による大規模な山腹崩壊やダムへの堆砂等により濁水長期化などの問題が顕著となった。
- そのため、平成17年度に高知県が主体となる「物部川濁水対策検討会」が発足され、これまで約15年間にわたり、発生源対策や貯水池対策の検討及び対策を実施してきた。

濁水長期化の経緯

- 物部川の上流域では、平成5年に発生した約500haに及ぶ大規模な山林火災により、さらに山肌が露出。
また、生態系の変化等で鹿が増加し食害も増えたことで、山林の荒廃も進行。
- 平成16年、17年の台風等の豪雨に伴う広域的な山腹崩壊により、中小降雨でも濁水が発生。
- 平成16年から濁水の長期化が顕著となり、特に平成18年には、永瀬ダムにおいて濁度21FTU（濁度15度程度）以上の日が年間100日以上継続し、濁水が下流に長期間流出したことにより社会的な問題となった。

濁水問題への対応状況

- 平成17年度に学識経験者や国、県などからなる「物部川濁水対策検討会」が発足。
平成19年度からは、流域住民の声も反映されるよう、流域3市の市長も参画。
- ①発生源対策 ②貯水池対策に区分し、それぞれ技術検討を実施。

濁水への対応に対する現状の認識

- 令和2年度に開催した「第16回物部川濁水対策検討会」において、上流から海岸域までの土砂循環の把握及び土砂が流下しないことによる環境上のリスクを整理、総合的な土砂管理の推進に関する意見があった。
- また、「令和2年度物部川流域治水協議会」の中で、あらためて永瀬ダムの濁水及び堆砂対策については流域全体で総合的な土砂管理による対策が必要と流域3市長や関係者の認識が一致。

永瀬ダム (H17.9.12)



物部川・別府山地区 (H17.9.12)



第17回 物部川濁水対策検討会

昨年度までの検討を踏まえた今後の物部川濁水対策検討会の論点

<論点>

I. 濁水長期化の解消に向けた対策

論点① 永瀬ダム貯水池内における洪水直後の高濁度を早期に排出するため抜本的に対策をすべきではないか。

II. 総合的な土砂管理の推進

論点② 計画を超える速度で進行している永瀬ダムの堆砂問題を解決するため抜本的に対策をすべきではないか。

論点③ 上流からの土砂供給の減少による河川・海岸の現状を把握するための調査・検討を実施すべきではないか。

<留意点>

●抜本的な濁水対策や総合的な土砂管理とあわせた治水・利水・環境対策

留意① 気候変動に対応するため、治水対策についても留意する必要がある。

留意② 河川環境の保護のため、各期間において必要な流量が確保できるように総合的な水管理についても留意する必要がある。

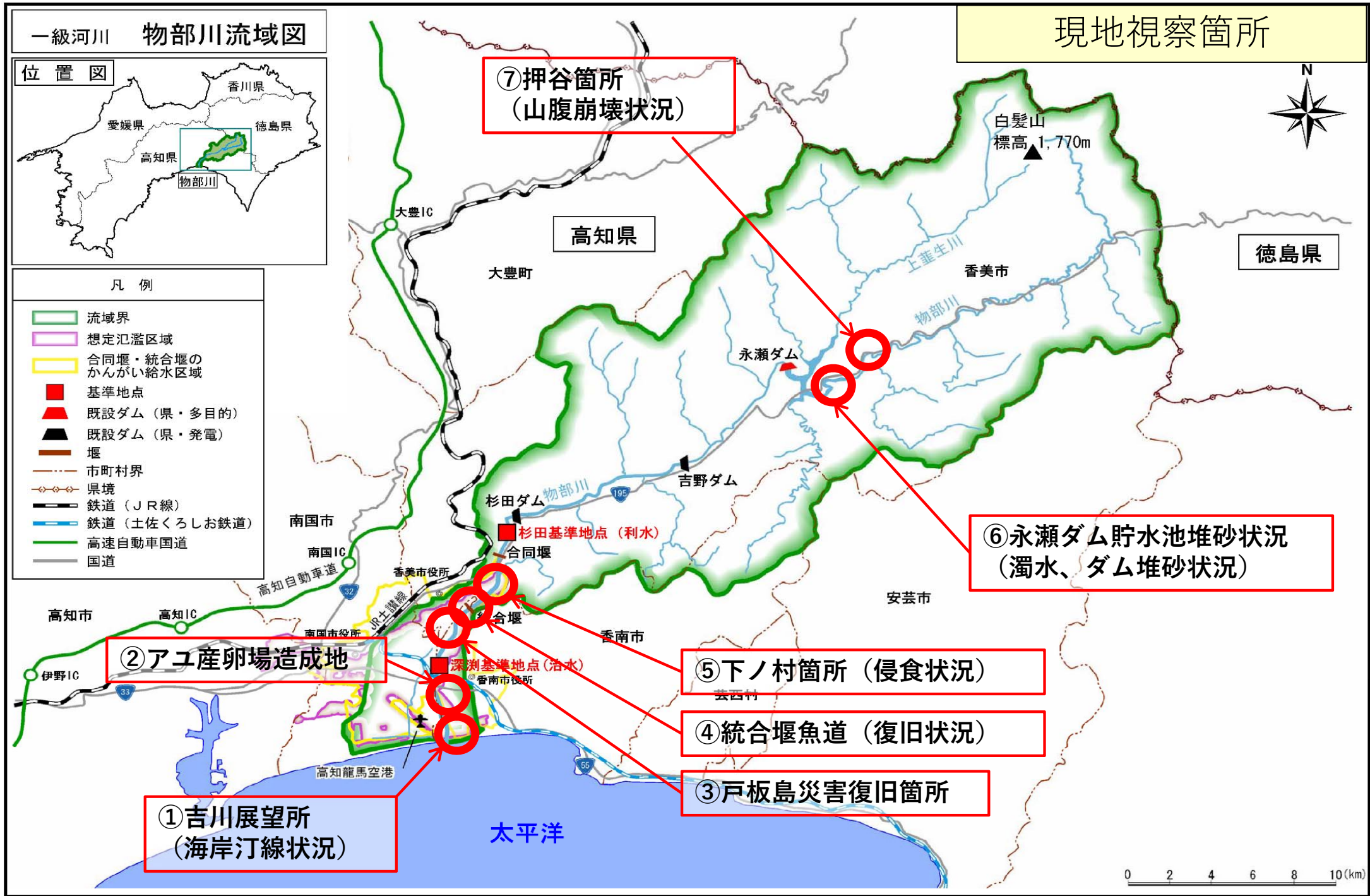
第17回 物部川濁水対策検討会

第17回 物部川濁水対策検討会にて議論された内容の要旨

- 濁水対策だけではなく、治水・利水・環境・土砂管理を含めて長期的な視点で総合的に取り組んで行く必要がある。
- 中長期的な対策としてはダムの改良等、抜本的な対策が必要であるということが認識できた。ただし短期的な対策としてはダムの改良等とは別に何らかの対応が必要である。
- 総合的な土砂管理について、どれくらいの粒径の土砂を下流へ流していくか、それより大きな粒径の土砂は上流で止めて必要な時に運搬するなどの議論が必要である。
- 土砂の粒径が過去より変化しているのは明らかであるため、今後の対策を検討していくためには詳細な調査を行い、河川、海岸に必要な粒径を推定する必要がある。
- 現在の物部川の維持流量では流速が遅くなり、生物の移動に影響がある。農業用水の確保等、利水も重要である事を認識しつつ、水量の確保に向けて検討を行ってほしい。



第18回 物部川濁水対策検討会



第18回 物部川濁水対策検討会

- 永瀬ダム上流域では山腹崩壊が度々発生し土砂供給が多く、貯水池内堆砂の進行が問題となっている。また、小さい粒径のものが下流側へ流れていかないことが問題となっている。
- 永瀬ダムへの堆砂を抑えるためにダム上流域からの過剰な土砂供給をどうやって処理していくか、また、下流側で必要な粒径を必要な量だけどうやって流すか、技術的な議論を行っていく必要がある。
- 現状でも河川管理者や漁協等のステークホルダーが協働して取り組んでいるように、産卵場の造成など工夫すれば改善につながることもある。今できるきめ細かな対処についても、関係機関で協議しながら進めていくことも重要である。
- ダムの目的として治水も重要であり、土砂が流れていくと河床が上昇し治水安全度が低下することも考えられるので、治水についても合わせて考えていく必要がある。



視察状況



NHKニュース「こうちいちばん」